



上 部分

3

粘葉本和漢朗詠集  
平安時代(十一世紀)

伝藤原行成

欲謂之水則漢女施粉之鏡清氣多  
 乃之花亦蜀人濯文之錦繁燦同上  
 孫自何孫唯言為裁世之極任春風音三  
 花飛如錦幾添粧殘表春風未與箱  
 好殘春風襟上巧北唯孫之孫系芳若の  
 眼矣蜀那裁孫錦耳博素襟調也筆相規  
 世中たこす襟たのりわまはるの  
 ころはのこをるま

初花を女姑者好みとら仁とる人を  
 地をたふせ乃とら恋しく永る恋死躬恒  
 みやのみや人より春らむ山橋と  
 ことにはまやしくい色川とよりま世素性

世の中(に)絶えて桜のなかりせば春の  
 心はのどけからまし

(在原業平、『古今和歌集』巻第一春歌上 五三番)

わが屋戸の花見がてらにくる人は  
 散りなむのちぞ恋しかるべき

(凡河内躬恒、『古今和歌集』巻第一春歌上 六七番)

見てのみや人にかたらむ桜花手  
 ことに折りて家づとにせむ

(素性法師、『古今和歌集』巻第一春歌上 五五番)

十の云業霜は露一子季色雪中涼吟  
 含雨嶺松天更霽燒秋林葉火還寒江  
 とよけなるよれみしりもころれ  
 ばいまひとしほの色まさりけり源宗子  
 われもよもひしりしりなかりねすみよま  
 けきしひのめつらいうよつわも  
 あまらたるあらひさみのおひあひ  
 をたもつけひしりすも安法師  
 竹  
 吟業家就ほ夜色風枝蕭飆々白  
 阮籍嘯場人歩月子歎者霞鳥栖煙章孝標  
 晋騎兵叅軍王子歎裁稱此君唐太子

下 部分

ときはなる松のみどりも春くれ  
 ばいまひとしほの色まさりけり

〔源宗子、『古今和歌集』卷第一春歌上 二四番〕

我見ても久しくなりぬ住よしよ

の岸の姫松いく世経ぬらむ

〔読人しらず、『古今和歌集』卷第十七雑歌上 九〇五番〕

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

やまとうた―美のこころ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 39

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十七年十月八日発行

© 2005, The Museum of the Imperial Collections